『ふろむ・マラウイ』～番外編１　隊員のあしあと～

29th /February/2016　第３８号

Muli bwanji ！（ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは，ご機嫌いかがの意）

『ふろむ・マラウイ』は，2010 年 9 月から 2012 年 11 月までの２年間，宮城県が派遣した青年海外協力隊員により，マラウイの文化や社会情勢を宮城県の皆さまにお知らせするために，３７号まで不定期連載したコラムです。時を経て，その当時の協力隊員が今度は『みやぎ草の根技術協力事業』の短期専門家として，再びマラウイを訪れる機会に恵まれました。そこで，『ふろむ・マラウイ』の一時復活です。

隊員として働いていた当時を振り返りながら，マラウイの今をお伝えしたいと思います。まずは，デッザのヘンリーの店（１１号に詳しく載っています）の今をご紹介。

私と同じデッザで活動していた 23 年度４次隊の下平太三（職種：村落開発）さんは，ヘンリーの店を通じて農村地域の女性の収入向上を目指し，ビールやジュースの王冠とチテンジ（布）の端切れを利用したお土産品の開発をしていました。品質を向上させることが売り上げのアップにつながるということをなんとか理解してもらおうと，孤軍奮闘されていたのを思い出します。その結果，写真のような，鍋敷き中心に商品を開発・販売にこぎ着けました。

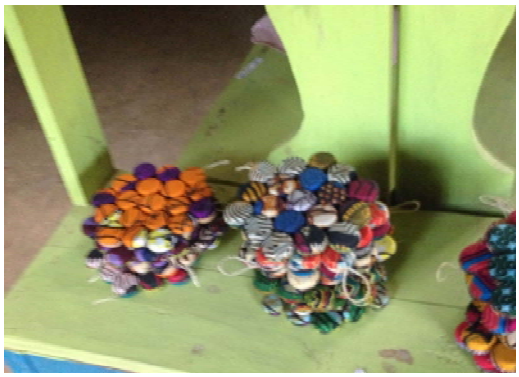
通常，隊員が去ってしまうとその活動が途切れてしまうことも多いのですが，なんとその活動は続いており，各地でコピー商品も出回っている状況でした。すっかり鍋敷きは，マラウイのお土産品として定着し，人気商品の一つになっていました。

下平隊員と協力して活動をしていたヘンリーのビジネスもうまくいっている様子で，彼の店は電気が入り，庭も立派になっていました。

隊員の活動がしっかりと引き継がれ，地域の人たちの生活向上に役立っている状況は，同じ隊員だった者として大変うれしい出来事でした。

マラウイには，私が気づかない多くの場所でこのような“隊員のあしあと”が残っていることだと思います。その“あしあと”が少しでも多く残っていることを願うばかりです。

ヘンリーの店のエントランス（ビジネスがうまくいっている？）



← **いまやマラウイ土産の定番**